田舍莊子 全

特
へ遠13
326
2

門へ遠13
號326
卷2

田舍莊子卷中

目録

瓜夢魂
蟇之神道
古寺幽靈
蟬蛻至樂
貪神夢會

田舍莊子卷中

東住士　伏齊樗山妄選

菜瓜夢魂

東國北部丹頁山といふ者あり。友伐訪く隣の
小郎り。ゆくるふ溝水の流れと遊ぐ。ひとし
七月十六日。ぶりり赤じてそこら吟ぶれ。
何やん怪しき物流を見ぶ。丸てんぶ葉風
みくるる氏作り。素麺と糧して。是や盆中精
靈棚に祭り捨てそれ物そり。彼やぶ。是。もまして
見るふ人戚こそる事あるを。頁山おりてく世間

皆うくろがしら茨ばらの手を拳くら用らまもも人今日
を拳ら拔くか。ものうくれた人ものしの。拔るが人を
むろかして用らくし時ものしの威勢と拔るひ。傷ま人人
ものしがぶくくれるひ。拳ら。ものくし拔ものしの。拔
膳紙こぐんぴ馬戯拍ものしの。我何ぞ感
むくんやくいかて。即奴めて家よ拔ものを膳よ書して曰
索麪靶韞麻骨蹠菜爪美兮用成騶
昨登蓮巢精靈架今漂游泥溝漁中
又作桑文弔之 八韵

為尒形丕 用成驥
以尒質軍 不久見弃
生巢深山 結實僻地
誰得有知 辱亦不至
般蔓圃園 見戈招事
非天非人 自受之譽
前喜後憂 始肥終悴
暫感盛衰 獨瀝涕淚

書終りて。菜瓜を拔毋して寝ぬる。萩文菜瓜

まてうみみ立くゝ云。其方がいゝ所を世間
名利の俗事ゝ我そ造化乃中ふ拵ゝ汝等ゝ儒の和ふ所
ゝ支天の物ゝ生ゝ我ハ我ゝ乃ゝ我ゝ
そ生ゝ我用ふ有り。ふ其ゝ我ハ富と作り岩ゝ
岩ゝ作ふくハをゝとゝ乃ゝ我ゝ作り。去ふ人
地ゝ耐抽。こゝてを壁と塗を。ふ有ゝ
ゝてを用ゝ我ゝ人ゝ我をやゝ風流
孫奇人ゝ賞味せゝ地ゝくゝ又

おゝ蓄へゝ。世乃ゝ實ふ手ゝ地ゝ
をゝ。世ふ沢山ゝ物ふ見ゝ
初生の所ふ。ゝ乃。ゝ人ゝ腸乃ゝ
ゝ漬ゝ乃ゝ
ゝて我ゝ乃ゝ乃ゝ我ゝ霊の
ゝ我ゝ相愛乃ゝ見ゝ
我ゝ用られゝ人ゝ人ゝ作ゝ
ゝ仕ゝ人ゝふ用ゝ
ゝ仕ゝ漆作ゝ拵ゝ加工の義

そこん我こ辱ごうて何ぞ人に慢うん。我賢
れいやーきそ天ちり。人をもくの質みしう
て用らハ分乃しきをしらず天ごと不意
人ととごめび下ぎして上達をなハ君子
乃道なり。我一天性島ふせもべきものなりそれに
無ひ深山幽谷ハ夢と生ず実に結ぶしし
せど。是天ハそむくの私也。私をん身と合せん
ととれも君ふれろふ。汝ふげうなる
らして。世ハそうぶ乃也に悪しく人

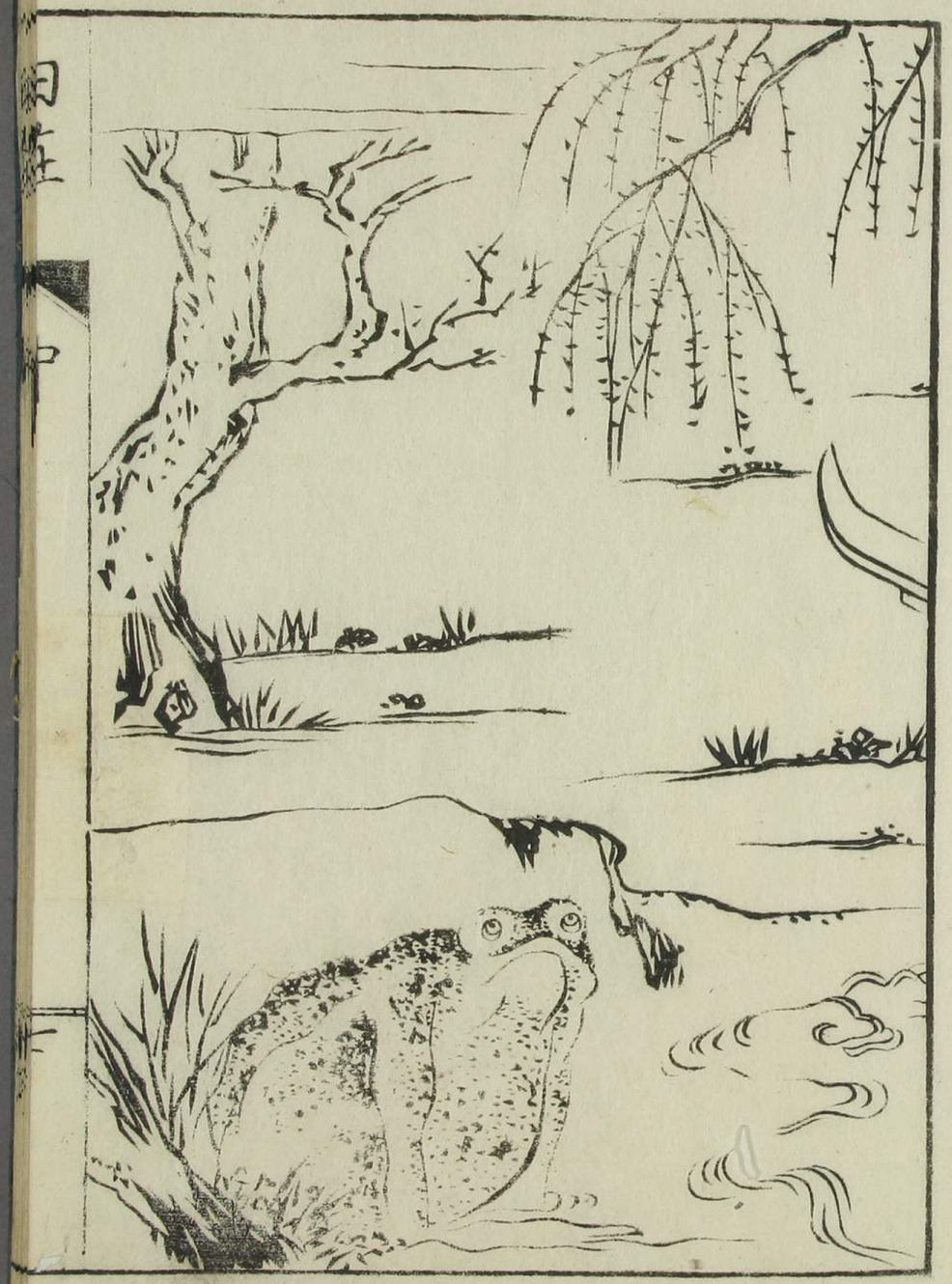
とくく非とした。縁ハ造物者や授ぶとに成ち
ば。鳥獣。汝小人ちなれ。汝がごとに者ふあや
まりて国政と執しあば。私ハ角と角て人倫
に不考ちなくの法と出し人倦民にうまて。
ちて色ハ乃ぶべし。今窮して下ふ居ハを汝
に幸也。汝家に去く学とにしあや。死生禍
福を余ちり。造化乃主人而望ハ学に成ひく
まねうち事と清ひや。只物に成いてとりと害
せど。とのまに成ハ物ふ汝こをやむしに成ひざる

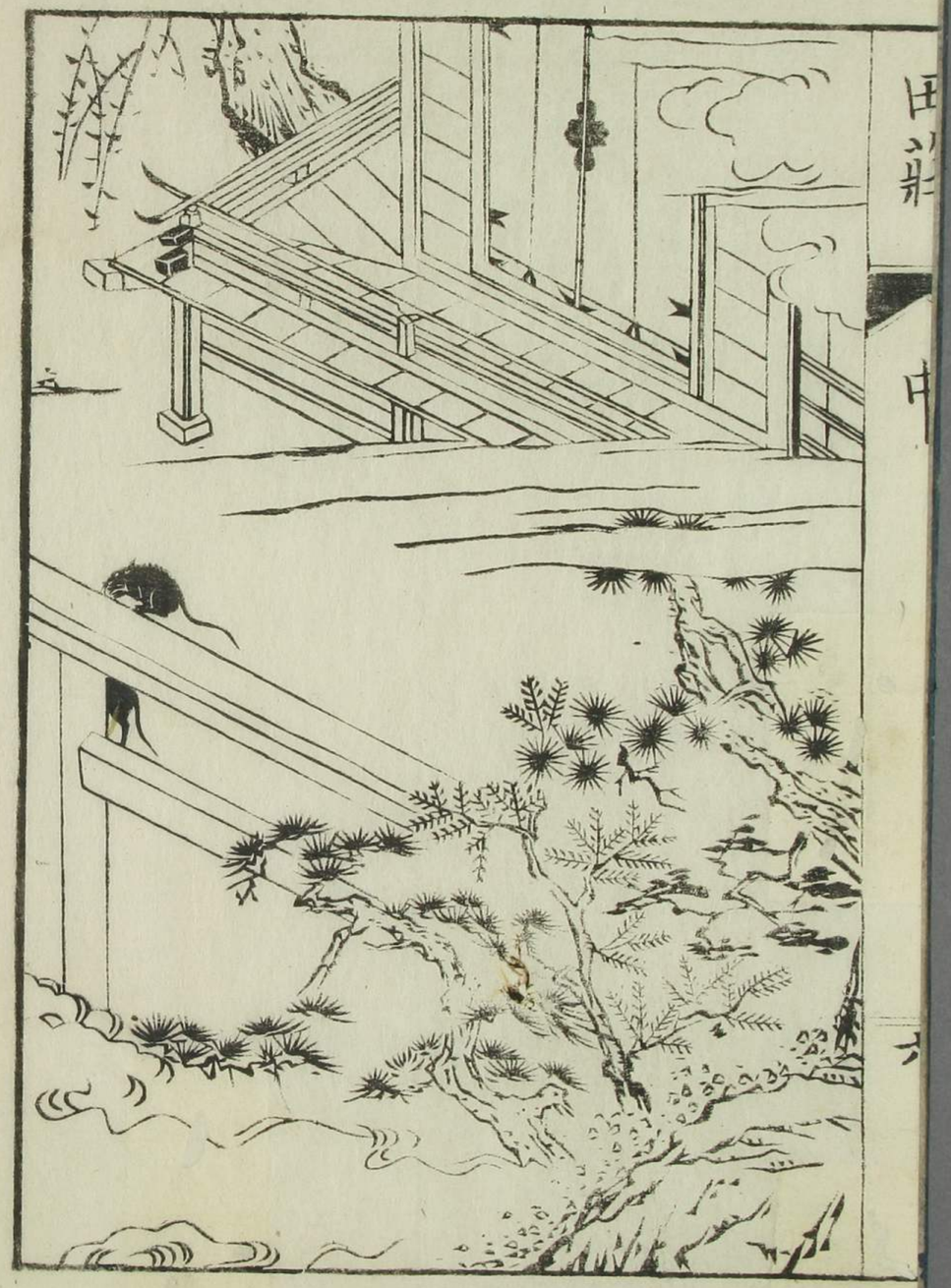
に應じて是非よしあしのを

蟇之神道

杯齋といふ者あり。山國に靈社ありしを聞て詣
けるに、鳥居の安置しあれば男。拜殿に向ひ
つて何やらんとなへて甚いふ肝膽を碎き
て祈りけるが、やがて堂の傍の方より石を投かけ
れ、本郷ものこゝろちがひして人をつぎのあたり
そこの代等しき物よりふところより見出てさしき
おやぢあり。彼男に問く云此何ものなれば

其つかまへてたいくやしてはたりひとの常
そうだ相とらば手欲ふかき者手ばかりざれ
よ何事ぞ彼何のそれとたば彼男答て曰くつ
しやまくも見ことなかは物われ。我さ亂の年
經されものゝ之。我天性弱く怯懦にして勇なる
事人の陰德をゆくりをやとし身ろ強き薬の
故よ身の不陰あるとい物よりかく我がおのれの
所へゆくずといふをねがひし。食物にうらひかなれど
拘らして不足といふ事なし。かくれ自然の我なれ





ごとく猫といふ曲ものゝ家どもに飼置ふたりひ
とりゝ害ふかゝ。和尚は佛陀の威力にて。
世界の猫と一度に殺生わるく付の重罪しか
そも猫といふ物は人の腹をくらふ。先こゝ心ゝ
し。人の秘蔵の飼鳥を食。圖炉裏に寝て
へ糞ゝ。そゝ猫まゝ物を拾ひ手にて人と
害と。掴ゝ。して盗ゝ。我が秘蔵の所
さして殺生ゝ和尚ゝ。身の害と去て

ゝ殺ゝの所和尚まで也。老人ゝ形ゝ人ゝて付
此亦和尚ゝ。して森清しゆぞゝ。おゝ養
ていゝく我を縁の下に蟇ゝ我ゝ世ゝ付
の所ゝ形ゝ人家ゝ害とかゝ人にゝく
ゝ事とゝ。安眠をゝ人ゝ殺生せ
らゝ事も形ゝ。英食ゝ殺ゝ盗ゝ
殺ゝこゝ。宮殿ゝ縁の下に居く。
我ゝ小ゝ出と捕て食。見ゝ一生
事思ゝ。何のゝゝ神ゝいのゝん。海を

害をなすものそもそも猫とあくむしをふせぐ也
ふるれどもなくとのまふうりきよ。ぬらいのごとく猫
といふものせふたにゆくせ蓋の物く。盗ごとも
ぬと捕ふの藝あれ能ふ。おく盗喰ともゆる
してくをと鋼亜そり。人と猫と相るに
ものあるべ。ぬとあくむしの悪しきゆへそもぬ
猫の世ふ蓋それ事ぬ知くぬが世ふ害あれ
ぬ人の公宮かくれば。ぬ天性
性をなみして強き鬻と持ちばるき本り

ようる。堅き本の実ぬ丸てひ。食物ふ捕ふく
を弾ふぬ山をなる出ぬ。そふ人の喰あま
してそれるふ捨てれ物のし捕ひて喰べ。
ぬうぬとにひぐぐぬんどうそれ猫と鋼えあん
や。ぬ人のれ鬻とそしべ人の物すぐ門へゆく
し絶つどして。人ふ害とそを本をすくるく人ふ
ふくまるく事と今ぐぐふいる面じぬが自慢の
鬻ふふして。人ふぬぬ物すべるて猫と鋼をく
ぬが居ふとそし求くもとしぬくふ人の女ハ

部く身に禍をわれ事へば乃蔵あく三て是
さり。世間とみくびぐさしぬ事に神ふいのん
しを。今ちん氏あて。人家ゑ害となしと
事明くべ世界ゑ蓋乃稲氏用人者さく。世乃
身と金くすさとひじ。ニしかごしめのに
かぐべ。人く我身とべ悔まだして。人とどあか
ふるいぐれ事ハ神ふいり仏ゑ祀む。小人の
常さり。神を祀礼と不受しを。何事
も神ゑさいのをバ法恵和正しふけよしお

りふ人乃をれ氏ろ地すり。是神明に
ふ形ゑ道いり。先我ゑ乃私欲金とく
去て問と繋ぎ神ゑ。を世清事しいふ拙
糸衣の日を求し。衣服と呼ん稲しきめと
不飲。身乃繋ぎ神ゑ。を弱清浄ふくを
四ゑ清浄ふして我ゑ乃誠と。神明氏祈
しをり時直ふ我ゑ氏のに立ゆふくを玉
ゑ感と行ぐ事。うふも不敬乃ふ氏ひとべ
うべ。世界をば神ゑ玉ゑの徳ふ感化

なり。心の私欲無尽し。縁の公無尽し。
して。慢こ情そこ[illegible]か中ゝ何こわく雑る心
生ぜ。ぱん騰神の乃来格しのひて万善の乃
感ぜ。万徳比無尽どれ不ェら。神乃ハ清浄
と貴べ。ぱ[illegible]ど神の[illegible]ハ神化の
助ゝ[illegible]く。我が心いよく清浄なん事ぞ
いろのゝ。神を不測乃妙用。天理乃正体こ。
我がゝ清浄ゝれを同ゝ[illegible]ぢ。同ゝ[illegible]
求ゝの道ぢて神の来格しのよく邪欲素

金をけがつて。神の乃巫姫のよ而すり。
故ゝ我が心ゝ[illegible]して私欲のまゝ[illegible]ばゝ百日
百夜ゝ[illegible]ゝ神の来格しのよ[illegible]所すり。
と掘切く。人乃ゝ[illegible]ゝと求ゝ[illegible]ゝ。ゝ神
道ゝ[illegible]奥義ゝ[illegible]ゝ。今の神ゝ[illegible]ゝ者と見
ゝ心乃けがを[illegible]ゝ[illegible]ゝ。
傷山伏祈宣ゝ[illegible]ゝ。
ゝん神ゝ[illegible]ゝ。身ゝ[illegible]ゝ。金紙賦寄
昌ゝ[illegible]ゝ病ゝ[illegible]ゝ食ゝ[illegible]ゝ。子孫ゝ繁

もし我と情へあらば。何こと幸進しなるべし。
矣社氏建立仕候処に亦こそ。わたり。亜細
と称めく。我氏うち我。林四郎彼がいやしき
ものよりも。歌よめば。我とうかへあらんや。光
と乃主がいやしき歌ゆえ氏ゆく林四とうち我
をり神とけづとれ志しきものし。即ち所ふ
舞とあてあらねば。林四郎和光乃川捨ちう。
人をどへくれどくの者とけとしかば。大ふいうり
ゆひ。忽神ょ彼ちえべし。ひう某氏とつる国姓

へ町人我ひゆきを我を。げ頃分乃泊同屋と。私
一人ようを付らで銀又百枚の運ちを出す
ゆひし。ゆきをば。その国姓爺大ふいうり。其町
人め我が頃分乃者ふかの乃泊氏かつをば。と乃屋
一人る事よ賣ゆしば。我ふ又百枚の運上と出し
ちと又ふ枚も利乃る事ちをべし。彼分の者
ふ難義ちせて。其町人と我し利とうりてと
らん事何事ぞやうち乃者ちゆて。出入
彼ちとべうとのち負へど。九次しち為氏

用人皆私入て過ぬしを伺ひ。かうれもうれ
まや人ふさ人ぶしきを人中を物語とんてい
ひ人がし。況や祈を不動の天徳を。玉徳
に感しまの。豈私仏と云て。邪とそそけ
ろしや

古寺幽霊

員山といふ者あり。友と後ひく。山寺よ探ぶ。
寺伝一ツの伝説と指して云。見いし屋門表
に墓ありぬ人を尚附威と東関ふ拝の武と

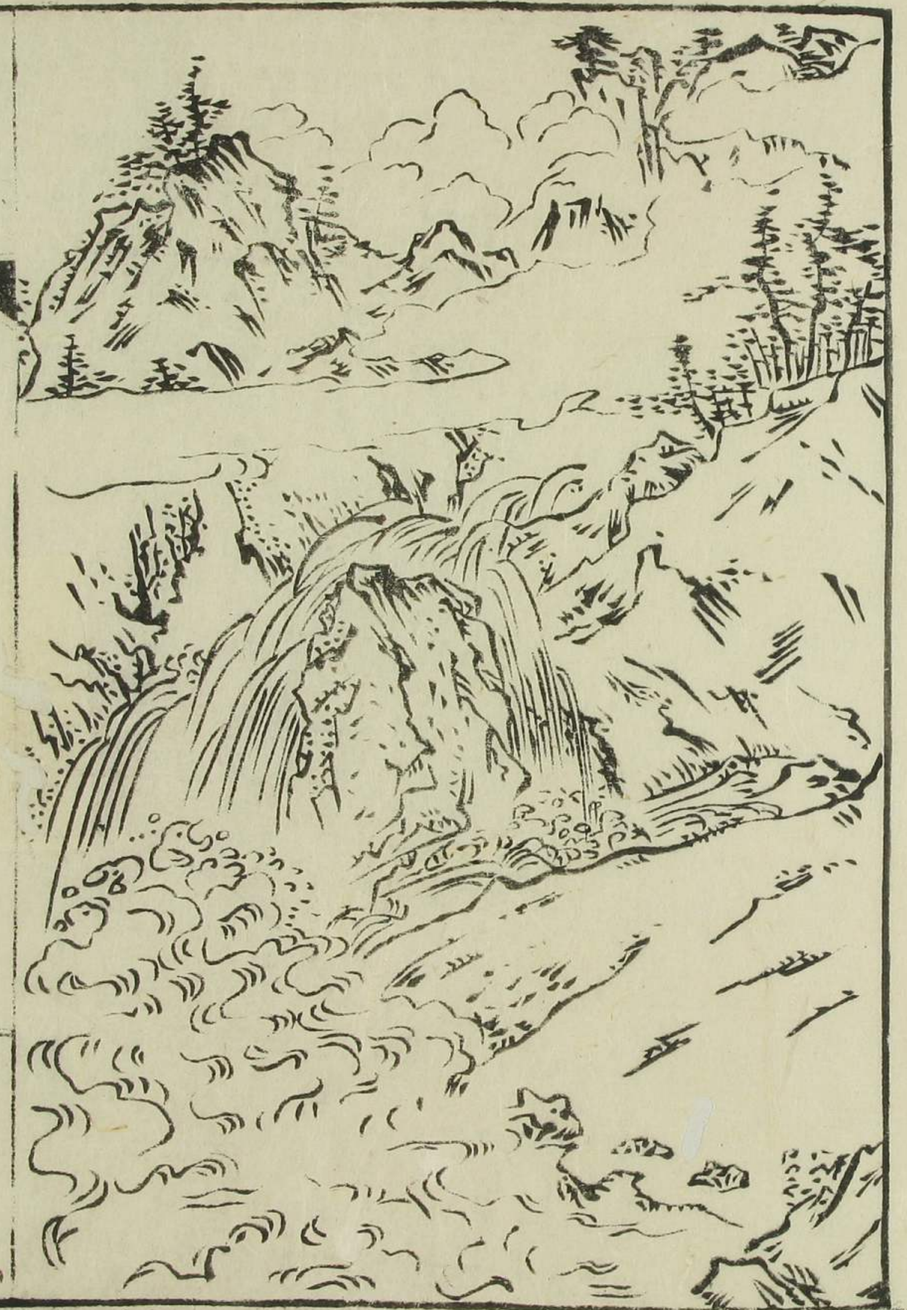
[illegible]り。今ハ繽墓しかく
市姫人も好し員山ぐ云我を安徳より義られ
世祭の業華忽ち一場の美しかり泉下の枯骨
波ろ子載乃祀を享しや人世乃幻那き事
とべくかくれどし邪業と呼し一紋と賦して
霊前ふ蓐ひ

春華開覆山如錦秋葉落時野起塵
人世榮耀渾是夢古碑猶残客沾巾

拝していまざおりぬ。墳の後しり怪しさ

ものあらつを出す。推使ふとあらば農夫まで見へど。髪と枝を枝とあれ。きく二人と招て云。汝等何を詩と作る。我が神代おもひやるとや。汝等世人の引歌ゆくあり小冥奠乃事と濃茶。大ふふちぐふふれ事し。合点をゆまじを是大海等に作りて実に面し。我ゆなせ乃四大四わまを頂きて。人まとそうれ。近世に肩式おしぶの石ゆく。出くかを証を耐い今洪乃勇士前後と寄後し。命所おやぐを

とゆふ事ゆ入く四方水桂を河して。女後舟士。ゆ歌小河し。古今のまと倫じていうたく。歌乃声ハ。身式恨げ。ゆ菜也れ濃を目と恨バしゆ。男女乃使今閑流れ撫八瑞乃逆味。つくして見ゆ。ゆ天下れたのこあとりゆを乃ふあるとおとう。今せ数つき余流く。敢を出を。ふを凱歌を。天と不載也と不履。上ふ若ゆく下ふの。出て歌四と制を式れ。式常とおく。乃氏と



治しべきんづるひも所。世乃治れるもあづらざ。
国治乃後遠みをうれうれなど。物しを捨ぬ
さるへ公。天下は玉楽をしく繁くしく
法虚乃ゑを帰を。王公は富貴しいへども。長
源うみをしべ。何ぞふ載乃紀と。をりうひや。
何を弟人を記事式うをへんや。負山が云天下の
治紀味乃海を子孫乃景尊。万民は国若ふと
心をくバ。不仁をしをを恵しきハ形しを。とて
玉楽をを云治甚惑へり天下を天下の

治あれて任し。一国の治をを任ど。我が子
孫とへども。生と滅る乃後を。我が有ふあ沒。
我をといひしをすを事紀乃をいんをを治
事紀ハぶれ西式公て。ゑくすを名ハ愚の動り
也。況や天化乃運命ハ。造物者をとつをさどる
国天下は生をいへども。造物者乃命と変て。を
と任をを生をべ。を又造化中は一役人也。永く
山国と子孫を治へく。我が初ををハ遠く。造物者
命と改る時を。加をを。腐づくをををのをね初

たり。我一人乃命令さへ。造化是と奪ふ時そ。
絶退もさらぬまし。況や廣き世天下とも。我が
子孫しいへども我が私乃子孫よあらん。造物者
乃ごく。なほ生ることを職とせしと
ぞし。是とおしへそと活め。死をも時へ其帰式
安むしてぞを子孫も造物者かへし。我へ隙居
して。一毫を此小枕席とべりしざれもの也。造物
者。我が子孫よ。國と興のべらんとあらん。奪べらんと奪
ひしを賞罰ハ造物者よ仕せ玉ふもの。今汝と我と

せと活ッ物等ど死乃腐濡我が以ての式伝せず
共生死海吐の一躰を示ふ式知く將ふ職
ふ式者熟識をべし即一絶と賊して去る

生前元寂寞　死後自無為
世と間看人間世　栄枯一局碁

蟬蛻至樂

蟬樹上ふりて。を蛻小謂く曰吾と汝と
ふと一体ありて去中にあり。今ふれ汝式編

して機上ふ吟じ。天陰とかく楽しうして我レ
酒とくみくく拾ふあるべしども我身故とかな
ともふ事能ハず。酒さかが我ハうらん我レ
酒乃清ハ試ハして毎ふ尼ハ尼ハ乃ハ。蓮ハ日酒
喜悲へり。天地乃ものハ命あり。無力ハ及
ぶ所ふあらず。其上酒ハ薬とハ。天陰ハ
吟じて楽といへども。おろかなる為乃来く
咎ハ。しハハ恐ハ。此楽あるべからず世乃中の常ハ今吾ハ神乃

血ともふ酒ふ中ゆゑり。大源ハ試ハ有りく。ものふ楽
ひ乃ハ又何とも求めん。まとハ死とハく
まど。法華経ハ。法華経ハ乃ハ
ろ迷ハ風ふ吹くとハ風ふ吹
又ハ。拍とさふとハ。船やふまとハ
ても痛まど。ものかひまとまど
天下憂ハ乃中ハ恐ハ。主公乃国
貴ふ乃ハ。其実ハ我レ
ゲ酒ふ中ハ楽ハ。其ハ乃さふハ試ハ

佛乃寂滅爲樂といふものも。然して微妙。
蟬ゞの云酒を飲ふ鮮脂乃人なり。我ゝ爲に
佛て世ふ求めゆかといへども。いまだ出ぬうち
とまゝ人世ゝ遽とる此道と世ひ。
既ゞ云我ゞ知る所あるあしび。強しいへども寂うふ
國しまあり。造化我と共して我と共まあ
そび。死生猶畫夜と命也。是と知てたゝん
と緊累し。是と恐まて八其心と苦しひ。こを形
此不及所以也。乃不能所以憂る者

を。愚乃至り也。其物とあるそび。あふ所安ひ
して。私意容ふ事なし。此時を天下此樂と
ひく物乃なもあふやぶる事時。此所を
真道と尋し。死生此所を帰所安ひ所のを
何乃むつし義事うあひ

貧神夢會

元休赤しいふ者あり。年幾ゆく貧也常ふ。天黒
天試作ゞく。福と祈ゞも云るし時。或乃
爰身。所をいぶくとも云ゞ。七福神あり所

ゆひ髪に紙。黄らしや。揚くく皮。又の如き者へ。
今銀の銚子かゝらけ。持たる酒肴丸盃へ。第三
嫁線嘶ひ茶。男女乃髪老とあり。あく拵奥
ゑくそり。又儀と云ふ是はあくまくやせおく
ろへ。ゲみそつぎまゝ着し。也食のてうある者
とも。豆腐乃うすごしたるこゝひ義しうう
に歩居しらつゝ中しり。又大人形とくふまて
ぶび志さり。若乃くるかふ腰とりけ。清水の像
ふ見ゝ式あるひ。股とおて嘶ひ。又一長切のやう

その拍を丸出。ゆふ義ふ次あるをゝ。春及
ゆくくして。何と義む音しるもあく都して
七福神乃遊興しるゝ。ゆさふ乃人へしり。五体歌
ふくきふおりひそ迫く立しりて。ゆ者いう義
人子徒だゝ。そ乃さ面見ゝ。くくそ腰こく七
福神の美式ゝ。しあれおして。仰る操いも
そくゆくくして鄭氏催しあへいらくゆし
さよ中い面。彼男ども答く云。くくゝ付のへ
拍る乱。ゝ心邦悟乃ゝ。何と見てを中て

人乃ち有る者も。竟家孔子に相敵して。道を
進むしたまへるものも。我くハ貪を祈こ。吾何で
彼稲荷ほどの事わんや。彼と我と皆命こ。
ものうこそ。彼等ハ天子公卿人ん富家。我
を富有乃町人ども。我と我この業雑と
ものとこの人ども。我徳乃人に我しかし我
ものを我ものとこの人ども。唐土わくい巣父
許由孔門にハ顔淵。閔子騫。原憲などに
我して簞瓢陋巷と王公乃富貴に不

動乃楽と知るべし。故に彼等何ぞ奢りて
錦繡と幕を。天人を吟ひ。世楽を
しいへども。蒙一味とおもはぬなり。故乃貪
なるに余命こいるべ。天黒氏作。七福神
かいのふとも。彼等ハ我しとハ我なを。
天乃ゆるされ而ある。天乃ゆるされ而を。
彼等と自ゆふ。ものの我ハ我ハ
換也。ものと我乃我しひ者とある也。居
なる。儀是の通なる貪を祈ふ等

もかつこうの事く。はかりかたをあらそ
ひの生出ける。脇乃うちらを回乃して
素より者どもなれど。ことげおしてもいとくあ
まりうど。打勝てとて死なりのくをと為
数の命しいと。急ぎもはひ現式おくをを微
し貪窮乃中ま居くくこと楽とう
おいをんば。彼貪欲神たもはとたふ書むで。
七福神ま取ふ幸をうるべ。ぞんくハ菓父。詳
世。旅子。閑子。原憲ま。ごく親しかふ犯して今

も其楽と不異しく。又股を拍く喫ひわ
ちを。如休毎騒しく。日微ま糸を門おしへ也。
形大我こを楽し西式ちを。死りくハを遊式
志ゆへ。貪神の云。首酩陽ぐが曰。天下の至
美興玉楽不しもの。業者者とそ。何とう玉
美とハ。財富貴ま居く今浪戦寞おく
衣食美と云。上の恩寵ありくを指深蓋
ま。て。其歓る不不達しをとれし。色人
ま乃楽しすを不して世ま其義ひ不ちり。

何ぞ玄楽しいと云ふ欲あるて是はなしと云ふ
至公子我みて物しく是非と妻とをなげき我れ
は自然と知りて生死禍福乃ちあは憑とした
生を生ふはせしく真道と云ふ死ふは面
をてこを帰と楽しなど面をとりやまだ貪
賤といふなど喜怒憂懼今代しかしれく
吉凶業辱をあはしく過ぎして遠
化乃中に躋ぶ元を天下は玄楽なり吾が
心はしく天下を抱を天下とん我が心を得る

ものなり。富貴福祿とあるとれなり。
元を求めるく行るとはなりなりをを
とをべるなど。至楽を我にあるとあこべと云ふ
して元と求まば。不如とはまず。其人
遠ひく求めるなり。孔子曰仁を求うしんや我
仁欲ほれば仁斯ふ来ぬを仁を所に玄楽
なり。求めても不可得相代。去わるく求る何を。
都てとのをとをうしめ。汗漫物乃ちあかをう
ち絶く。安んぞ絶ちんぞ名と求ひきべ

名乃ごとあふたるを。金銀式求まべ金銀の
をもあふつくれ。遠地と求る物を異邦乃た
めにうれ。文を好むに名を是れをもあふた
うつを。吾が大切乃人他の此儀とする事
をもうだ遠日はふんを用ひて勝負。今れ人を
此ふ巧をたる者と智ありしいへ。ゆへ乃人は是式
愚者。小人と云。此ふ心を用ゆる時を。玉楽と
日くに遠ざかるを行ふ玉楽乃地を窺ひ
知る者は富貴福祿を求ることなすゆへ

賢人君子。富を不義にして得る事を禍也。そもく富貴
福祿とは求る者をもとめ求るふあるべき人
は是徳をもとめ上をも挙用ひらるべ
やうしに不仁にして変るべ。貧賤小人のも
と常に不合故ふ仁ふあるて過ける
る者。和漢ともに多しいへ。過ける
ども我が至楽よりおもくはいちげん
此河ふ毒つく。富貴福祿を棄ぬしかること
なきもの乃ごし。富を福祿をも憎貴

子孫也。我ふるゝ故なり。貴賤老ハ富貴
福祿。都て分ハ極樂ハ事ハ有ハ興き
ゝ。俳諧ハ事ハ不受者年。俳由義ハ陽。
孔門の顏淵。荘子蓼洲の故なり

田舍莊子巻之中終